



本草綱目  
上

利2  
369  
1





























































































○うたがねく 竹取物語よりうたがねくともあり

○かぶら〜 万葉十八よりかぶら可豆良枝十九又藤可牟又  
可豆良久ハ山志〜日かけ可豆良表流なり粒多し

○かぶら〜 和名抄ニ新加比路久住ニ船不安也此あり  
ら此活き〜

○かぶら〜 枕草紙より〜 車ニかぶらともあり

○かぶら〜 万葉物語後陸より〜

○〜 古事記上より〜 久岐斯子也万葉集十七  
かぶら〜 万葉集十九又立久久等〜

○〜 源氏物語〜

若菜上ノ冠の〜 又枕草紙  
〜

○〜 住吉物語〜

○〜 源氏物語〜

○〜 和名抄ニ嘶咽古路々久〜

○〜 後撰集より〜

○〜 万葉集ニ言佐敷久〜

○〜 古今集物名ニ〜 又母後守為忠











日記よむる所ひからよむる所へしきよむる所へ

○動ろ老く 枕草紙よむる所へ

○ふたろく 日本紀よむる所へ 悲恨 哭 悲 怒 泣 泣 泣

○あぶく 蜻蛉日記五よ雨風いしきくふくくくくく

夫本草よむる所へかかれてはもはやくくくく

○ほろく 日本記神代卷よ神祝祝之とよめん

○まろく 古事記中卷よ枕其右之御膝万葉集五よん

のむる所へあが摩久良可武たふあ

○まろく 字鏡よ瞳目數動良万志呂久とよめ

○みろく 万葉三よ素身而麻之手 淡松中羽をあかす哥

よむる所へはもみろく神のうまむる所へ

○みろく 万葉十八ようと向のぞ美都久かをぬとよめ

はら弥豆伎しよむる所へも同言なる所へ

○ゆろく 万葉二十よ由良久玉のよとよめ

○ゆろく 位音物記よゆる所へ又松葉紙よゆる所へ

ゆる所へももむる所へ

○ようく 後撰集松よ布をよめんとよめ

きろく ぬの月又よめんとよめ 真風集よ松とよめ

元真集よものねも宿の萩の葉とよめ 蜻蛉日記よめ

宛そへよめんとよめ 校衣三よめんとよめ



















○のゝゝ 住吉おぼろよまへののちてあはれ

○のゝゝ 万葉集二よ歌くもあはれ波氣まゝの歌く作留ハカレ  
あはれあはれあはれ

○のゝゝ 万葉集二よ歌くもあはれ波氣まゝの歌く作留ハカレ  
あはれあはれあはれ

○のゝゝ 源氏物語のたつたつたのちてあはれ  
二よのちてあはれ

○のゝゝ 源氏物語のたつたつたのちてあはれ  
二よのちてあはれ

○ほゝゝ 源氏物語のたつたつたのちてあはれ

○ほゝゝ 源氏物語のたつたつたのちてあはれ

○むゝゝ 万葉五よかゝる武氣たつたつたのちてあはれ

○やゝゝ 万葉二よあはれ所焼ヤクとあはれ

○わゝゝ 万葉五よ和和氣とあはれ

○わゝゝ 万葉五よ和和氣とあはれ

○古事記中巻歌よゝゝ波氣まゝの歌く作留ハカレ  
奈久流よか下よまかゝるあはれ

の物モノゝゝ 源氏物語のたつたつたのちてあはれ  
ままかゝる源氏手習よゝゝ



























○おびやの字鏡又御於比也須とあるこれうゝあて  
外よりししも、お加の字の脱オチするに、あつたるう

○おびやの源氏東屋におびやうしたまは、安とあり

○おほひの系十八りまを、於保之區二十ふなごつ、於保佐牟  
可コきま、於保世流六帖二又六ふなごつ、おひくう、おひか

おひか、の村を、まきよ、おひか、おひかの、まきよ、おひか、  
多し、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
に、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

き、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
○おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

○おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

○おひか、日本紀神代卷、鍛カクシテ作新鉤云、三代実録十八、

改鏡益神宝為負觀、永宝常乃、鑄錢司路遠、妨多、尔依天

加太、之於山城国葛野郡、天令鑄作云、とん、え、く、た、わ、

○おひか、後撰集、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、

おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、  
おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、おひか、







かゝる見ゆる書りしそまゝとあり

○とあはれ古事記中巻より本岐流本斯とありけ  
活たるはるし

○とあまの神賀初より黒益之云々葉花物語の  
里にそなふはまゝしなめとあり

○とあはれうたが物後信濃巻よりあまをまゝし  
する此波やまゝあり

○とあはれ枕草紙よりあまをまゝしして  
○とあはれ日本紀又許夜勢屢万葉集五より

許夜斯なるあまをまゝししてあはれありはて  
す四のまゝより

てあまをまゝししてあはれあり

○とあはれ出雲國造神賀詞より下石根よりあまを  
まゝししてあはれあり

○とあはれうたが物後信濃巻よりあまをまゝし  
してあはれあり

あまをまゝししてあはれありはてす源氏

やまのあまをまゝししてあはれありはてす

たより枕草紙よりあまをまゝししてあはれあり

あまをまゝししてあはれあり

○とあはれあまをまゝししてあはれあり

○とあはれあまをまゝししてあはれあり

○とあはれあまをまゝししてあはれあり



かよのかくれかろく我をけりしそあるぬ心そとくさうたあ  
 源氏集本よたきう八まうせれよめゆらんたあもあめ  
 ○まごの源氏蓮生よたきくしうたあひまごしうたあ  
 ○まごの源氏ゆゑるまゝの源志しうたあもあめ  
 ○たごの源氏若菜よまごの源志しうたあもあめ  
 ○たごの源氏大被初よ置足オキタラ波志ハシ万葉集十三よ河をたごらみ  
 おもひ足タラ持たあめいしうたあ  
 ○たごの竹取物語よまごの源志しうたあもあめ  
 赤津濱のあまよまごの源志しうたあもあめ  
 たごの源志しうたあもあめ

毛部モロの源志しうたあもあめ  
 ○たごの万葉十八よ天良佐氏とあひまごの源志しうたあもあめ  
 ○たごの字鏡又衛天良波須とあめ又日本紀事よま  
 やてらまゝと波行の画題よま活しうたあもあめ  
 ○たごの古事記上巻歌よいは那佐牟ナサモ又いしうたあもあめ  
 万葉二よ花とあひまごの源志しうたあもあめ  
 十四よいめまごの源志しうたあもあめ  
 ○たごの蜻蛉日記よま活しうたあもあめ  
 ○たごの源志しうたあもあめ  
 万葉集十三よ河をたごらみ



























ハ得一本おかしき...  
ハ得一本おかしき...  
ハ得一本おかしき...

○かれはる万葉集十六又括為禮とあり

○志のゆる後撰集地名志のせぬ拾遺集志のありぬ

志のゆる又志のゆる...  
志のゆる又志のゆる...  
志のゆる又志のゆる...

○しるる万葉十四又た...  
しるる万葉十四又た...  
しるる万葉十四又た...

又清正集のわら...  
又清正集のわら...  
又清正集のわら...

○おきる源氏須子...  
おきる源氏須子...  
おきる源氏須子...

しるる葉花物...  
しるる葉花物...  
しるる葉花物...

物評の...  
物評の...  
物評の...

お辞ハ切...  
お辞ハ切...  
お辞ハ切...

○たえる万葉十四...  
たえる万葉十四...  
たえる万葉十四...

○あはる拾遺集...  
あはる拾遺集...  
あはる拾遺集...

下二段の活詞

此を俗の...  
此を俗の...  
此を俗の...

但し...  
但し...  
但し...

あはる...  
あはる...  
あはる...

あはる...  
あはる...  
あはる...

あはる...  
あはる...  
あはる...

あはる...  
あはる...  
あはる...

あはる...  
あはる...  
あはる...

あはる...  
あはる...  
あはる...























もどくはれどころ四段の活きたるまゝいふたふ

○まわりの源氏相壺ふいそまゝわくせめてなごり多し

○あたる和名鈔の哽咽無須源氏ありしのまゝたもこ

ひせはなれどころいふ

○たぐま<sup>ニ</sup>せもなる<sup>ニ</sup>れどあつハま<sup>ニ</sup>せの<sup>ニ</sup>留ま<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>て

の活きたるまゝのそのよし加行の下二段の末ふいそまゝ

萬葉十五よも<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>を伊麻勢早とあ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>を



